

NEWS & TOPICS

[JICA橋梁写真集 出版記念の集い]

人、国、未来をつなぐ橋

橋梁技術者の情熱を伝える写真集を出版

カンボジアのつばさ橋やコンゴ民主共和国のマタディ橋など、日本はこれまで政府開発援助(ODA)を通じて約2,000に上る橋を開発途上国に建設してきた。国際協力機構(JICA)と(株)国際開発ジャーナル社は、このほどこれらの橋の記録をまとめた写真集を共同出版し、6月17日、都内で出版記念の集いを開催した。

橋は「魂の結晶」

今回の写真集『世界をつなぐ架け橋』は、ODAの実態や、日本の橋梁技術者の誇りと情熱を多くの人々に知ってもらいたいという田中明彦JICA理事長の思いから生まれたもの。出版を記念して開かれた集いであいさつに立った田中理事長は、厳しい環境の下で橋梁建設に従事してきた多くの技術者たちへ敬意を表した上で、「開発途上国における橋梁建設事業は、多くの技術者による魂の結晶だ」などと述べた。

その後、横浜国立大学先端科学高等研究院の藤野陽三・上席特別教授が、「国際協力における橋梁インフラの役割と日本の技～日本の技術を世界につなぐ技術と人」

と題して基調講演を行った。藤野教授は、「橋は、何十年経っても変わらずそこにたたずむ、いわばその土地のランドマークであるからこそ、安全性や耐久性が重視されるべき」と指摘。「どうすれば、価格ではなく、品質で現地政府から選んでもらえるか、日本は考えていかなければならない」と主張した。

基調講演に続き、「日本の技術者たちが世界に架けた橋梁」と題したパネルディスカッションが行われた。パネリストとして登壇したのは、つばさ橋の調査・設計に携わった(株)オリエンタルコンサルタンツグローバル上席理事の郡司勇氏と、(株)長大海外事業本部技術顧問の安井淳治氏、同橋の施工の統括を務めた三井住友建



写真集を手に橋への思いを熱弁する藤野教授

設(株)国際支店ネアックルン橋建設工事事業所長の北田郁夫氏、マタディ橋の維持管理に携わった(株)オリエンタルコンサルタンツグローバル道路交通事業部顧問の辰巳正明氏、そしてJICA社会基盤・平和構築部長の中村明氏。5人は、調査・設計・施工・維持管理など、各段階におけるそれぞれの現場での取り組みや苦労などを語り、橋梁建設の奥深さを伝えた。

完成前の姿を表紙に

今回出版された写真集のコンセプトは、「つなぐ」。ページをめくると、世界各地に日本が建設してきた橋が、「大陸をつなぐ」「地域をつなぐ」「発展をつなぐ」の3つに分類されて紹介されている。表紙には、2010年12月に着工し、今年4月に開通したカンボジアのつばさ橋の写真が選ばれた。ただし、使われているのは完成した後のものではなく、工事途中の写真だ。この理由について、前出の中村部長は、「“つなぐ”というコンセプトに合わせ、“現在と未来はつながっている”というメッセージを込め、未完成の写真を選んだ」と明かした。



日本の橋梁建設の歩みについて語る田中JICA理事長(一番右)と、感慨深げに聞くパネリストたち